



カラフルに塗装された自転車や家具の並ぶ空き家を見て回る学生ら＝掛川市居尻で

原泉アートデイズ

滞在作家の感性探る

掛川学生らが作品鑑賞

国内外の芸術家による長期滞在制作「アーティスト・イン・レジデンス」の作品が楽しめる「原泉アートデイズ」が、26日までの木曜日、掛川市最北部の原泉地域一帯で開かれている。12日には、来年秋の市民芸術祭「かけがわ茶エンナーレ2024」で新たなアートイベントを市内で運営する「未来創造プロジェクト」に関わる中学生から大学生までが訪れ、理解を深めた。

（築山栄太郎）

6回目となった今年の「アートデイズ」のテーマは「交差する日常」。12日は、学生ら9人が、原泉アートプロジェクトの羽鳥祐子代表から「アーティストたちは

自然や空間の中にいることで、アイデアが生まれてくる。いろいろな人と関わることも大事にしている」と説明を受けた。

地域内に点在する11の作品を、北から徒歩や車で南下しながら鑑賞。廃校のプールの飛び込み台を配した市有林、使われなくなった自転車や家具をカラフルに塗装して並べた空き家などに目を細めた。静岡文化芸術大文化政策学部2年の伊藤美紅さん(20)は「この地でやることに意味があり、そこから制作のヒントを得るアーティストの感性を邪魔してはいけない」ということが分かった」と話した。

今後の開催日は16～19日、23～26日で、来場者は旧原泉第2製茶工場(萩間)か、旧田中屋(黒俣)で受け付けが必要。観覧料は任意。

18、19、25日午後2時から、家族3人組「松島家」のパフォーマンスが地域内(会場は毎回異なる)である。最終日の26日午後2時から、参加アーティストの西村卓さんの作品と共に地域を練り歩く「原泉アートパレード」を繰り広げる。いずれのイベントも、参加は午後1時半まで受け付ける。☎同プロジェクト080(3936)1109